

# さんま



## 焼き隊体験取材

「15年間お互いがはぐくんだ「おもてなし」を大切に笑顔で」というさんま焼き隊の心を胸に、さんま焼き隊の一員としてさんま焼き体験をしました。 文・取材：廣瀬 隆志



終了後、匠民センター奥産館で撮影に徹してくれた黒木編集員(右)と2ショット

焼き隊のシンボル「黄色いタオル」に焼き隊で一緒だったタレントのウド鈴木さんのサインを買って大満足。ウド鈴木さんは、気仙沼の方々とともにさんまの水揚げなども行なわれていたそうです。

### ③これから焼くぞ！



よっしゃー。  
やきまくるぞ～！

ゴーグルは必須アイテム。さんまを焼くときに出る煙から目をゴーグルが守ってくれます。

### ②塩ふり・焼き方指導



ドキドキ！超心配。

大事なのは塩のふり加減。こだわりの塩は2種類。



「大分県産カボス」のシールをお血に貼る仕事もありました。

### ①いざ、出発！



このボックスの中に水揚げされたさんまが約5000匹。



自分が焼いたさんまでお客さんを笑顔にするぞっ。でも、うまく焼けるかな？！

### ④焼いている！



熱い！やけど7ヶ所。  
A CHI CHI A CHI！



スプレー：火が強火になった時の重要道具。  
トング：さんまをひっくり返したり、トレイにのせる時に重要道具。

### ⑥焼けた



うまく焼けた～！さんま焼き隊の心。さんまを焼いている間の約10分間はお客さんとの対話を心がけ「おもてなし」の心を大切に。



守屋隊長

■気仙沼の焼き隊隊長について  
カリスマ性があるというのはいわゆるのうたをいうのだと思います。参加してよかったという気持ちになり、毎年の参加につながっているのです。

■さんま焼き隊について  
焼いているときも涙が出るが、次の日の午前中も出続けた経験があります。においもすごいので洗濯4～5回してもにおいが取れないのです。洗濯石鹸ではなく、血洗用洗剤で洗うこともあるほどです。このさんままつりは、多くの寄付で成り立っているという聞いています。みんなの気持ちの詰まったおまつりなので、心からすごいと思います。

■さんま焼き隊について  
焼いているときも涙が出るが、次の日の午前中も出続けた経験があります。においもすごいので洗濯4～5回してもにおいが取れないのです。洗濯石鹸ではなく、血洗用洗剤で洗うこともあるほどです。このさんままつりは、多くの寄付で成り立っているという聞いています。みんなの気持ちの詰まったおまつりなので、心からすごいと思います。



一緒にさんまを焼いた、9班の秋野さんご夫妻にインタビュー！

焼き隊に参加したきっかけは、せっかく黒目に住んでいるのなら、地域に関わっていきたいと思い参加し、今年で3回目です。  
ここで友人になった気仙沼の方もいるので、毎年会えるのを楽しみに参加しています。東日本大震災があり、とても心配しましたが、また今年もみなさんに会えて嬉しです。

### さんま焼き隊を体験して

とても貴重な経験となりました。復興への第一歩となるお手伝いを少しでも出来たらと思い、さんま焼き隊に参加しましたが、本当に貴重な経験となりました。来年もそして、この先もずっと「おもてなし」の心を忘れずに復興の支援を行っていきたくと思っています。